

お元気ですか日本共産党村議の

川崎あつ子

(かわさき 篤子)



2012年 11月 11日 65

ご相談はお気軽にお寄せください

〒319-1106 東海村白方284-1 TEL/FAX 029-282-0229

E-mail atsuko-k@car.ocn.ne.jp



小菊

日本共産党発行



日刊●月3,400円
日曜版●月800円

バックナンバーは「川崎あつ子」検索でお読みいただけます

立冬を迎え、ひだまりの暖かさにホッとします。村議会原子力問題調査特別委員会による、村民の皆さんからの意見聴取会が過日行われました。また、JCOの近隣のみなさんから不安の声が

上がっている低レベル放射能汚染物質の焼却施設建設について、事業所から説明会が3回にわたって行われ、いずれも活発な意見が相次ぎました。東日本大震災から1年8カ月、被災地

の懸命な努力にもかかわらず、復興は遅々として進みません。そのもとで、復興予算の流用というとんでもない事態が、深い怒りを引き起こしています。この間の活動の様子をお知らせします。

原特委 意見聴取会

村議会原特委は、10月25日と28日の2日間、村研究交流プラザで、東海第2原発を

めぐる4つの請願(廃炉・再稼働反対3、推進1)を審議するた

め意見聴取会を行い、約530名の村民、村内勤務者のみなさんが参加されました。77人が発言(廃炉42人、推進32人、中立3人)。廃炉意見は「原発は電気料が高くなる」「死の灰の始末ができない」「廃炉で人手は必要」など、一方推進意見は、「雇用がなくなる」「財政が困難になる」「原発は安全」というものでした。



また、31日締切だった村議会ホームページとコミセンに置かれた意見を書き込む用紙へのご意見は、約1,580通寄せられ、現在集約中です。ご協力ありがとうございました。

次回 原特委員会日程：15日(金)午後1時半～ 庁舎5階

日本共産党茨城4区うの周治 国政対策委員長がご挨拶

10/24村内で、原発をゼロに、TPP反対、消費税増税実施やめよなどと訴えご挨拶しました。



復興予算流用 どこからこんなことが起きたのか！

昨年(2011年)6月、民主、自民、公明党の賛成で、復興基本法がつけられました。その中に新成長戦略(大企業にもお金をバラマクことに使えますよ)という項目がつけられました。それをもとに政府は、7月に復興の基本方針を作り、第3次補正予算ができました。その中で、ベトナムへの原発輸出の調査費5億円などへの流れの仕掛けを作ってしまったのです。

今国会で、自公が民主を批判しますが、これは茶番劇です。その時、作ってしまった民・自・公は共同責任を取る必要があります。それらをはっきりさせた上で、復興基本法は直さなければなりません。

流用を止めて、被災地の住宅再建、病院、漁港、商店の再建の本当の意味での純粋な再建に使わなければいけません。今度の震災で生活、住宅再建のために、

個人の生活ができずに苦しむ多くの人がいます。ところが、政府は「個人財産の形成になってはいけない」と住宅、商店、工場、病院に公的支援はやらないとしています。これによって個人にお金が回らなくなっています。

復興では、この公的支援の枠を、「個人への公的支援をやる」と転換することが大事です。

10月18日塩川てつや日本共産党衆議

院議員が来村し、村内の被災者連絡会のみなさんと懇談を行いました。



被災者連絡会のみなさんと塩川てつや党衆議院議員との懇談に臨む議員団

戸別受信機故障等の際防災ラジオに交換



村は、各家庭に今ある防災無線戸別受信機に不具合が生じた場合には、ラジオとライト付き受信機に変える予定です。具体的な経過と内容を伺いました。

経済環境部長の答弁 「戸別受信機は、平成9年度に村内全戸に配布しましたが、購入から10年以上と耐用年数が大幅に超過し、音声が聞こえない、雑音が多いなど、故障するケースが多発しています。この状況を踏まえ、ラジオやライトなどの付加価値をつけた防災ラジオに変更することにしました。昨年度50台の防災ラジオを購入し、**村内全域で受信が可能であることが確認されました。**今後入荷次第、新規または故障等の原因で戸別受信機を交換する際には、防災ラジオをお渡しします。防災ラジオはラジオ、ライトつきなので、避難する際には携帯するよう周知しています。今回は、500基の購入により割安になるので補正計上しました」

昨年私は、つくばみらい市の見本を見て、村にラジオ型への切り替えを求めましたが、それと全く同型のものでした。

雑草に覆われた田んぼ

10/10、日本共産党茨城北部地区議員団



建設予定林の入口

は、高萩市長はじめ市議会、多くの市民が反対する「(放射性)指定廃棄物」処分場建設の候補地となっている高萩上君田の計画を調査しました。

また、津波被害が大きく、今だそのままとなっているいわき市薄磯海水浴場へ。



磯浜海水浴場

さらに福島第1原発から20kmの楢葉町に、その先は進入禁止の電光掲示板、道路わきの草むらは3.7マイクロシーベルトを記録しました。周辺の田んぼは、一面セイタカアワダチ草の黄色い花に覆われ、夕刻でしたが、家々は明かりもなく、ひっそりと静まりかえっていました。



JCO焼却施設問題

13年前、臨界事故を起こしたJCOは、敷地内に「低レベル放射性廃棄物の焼却施設」を建設する計画です。間近には、住宅、小学校、保育所があり、このような場所に放射性廃棄物の焼却施設を作らせてよいのかと住民が不安の声を上げています。私は焼却炉は作らせるべきでないと主張し、村の対応を伺いました。

経済環境部長の答弁 「JCOは、6月に350m周辺住民に、事業計画等を説明しました。村は、説明会で焼却施設の設置場所(事故のあった建や)を変更するよう住民から意見が出され、JCOに検討するよう伝え、協議を進めてきました。その後、JCOから設置場所を変更する旨の報告があり、住民説明会を再度開催するよう申し入れ、8月に開られました。村は、説明会の対象地域の拡大を求めたが、拡大されなかつ

たこと、住民の質問等に対する回答が不十分であり、詳細な情報提供を丁寧に行うよう強く要望しています。また、JCOは、地域を拡大しながら説明会を開いていくと話しています。

JCOは、文部科学省から8月28日付の許可書面を受領していたと9月3日連絡があり、村には、5日文書が届きました。法に基づいた許可とらえています。また、説明会は、10月末に範囲を拡大しながら細かく行うと言っています」



その後、3回にわたり説明会が開かれ、いずれも住民からは新たな疑問が出されました。私は、3回の説明を受け「これで建設を進めるのか」と尋ねました。

JCOは、「意見は、運営の参考にする。自治会、東海村、那珂市の意見を踏まえて検討したい」と言っていました。

イレブンアクション「原発ゼロ」

11月11日に、全国で一斉に行われた「反原発100万人大占拠」行動がありました。午後から雨を突いて国会・霞が関は、多くの人で埋められました。



これに呼応して行われた東海駅前でも、政府に「原発ゼロ」の英断をさせ、東海第2原発の再稼働は許さず、原発即時廃止を実現させようと、みんなの思いをアピールしました。

